

成澤文和君・写真展訪問記

小宮山 豊（2組）

3月1日（金）、さいたま市民ギャラリー（さいたま市）で開催された成澤文和君（4組）の写真展に、上原昇君（2組）、関賢治君（2組）と共に訪れた。写真家・徳光ゆかり先生の指導のもと、15名によるグループ展で、南浦和写真を愉しむ会「はじめての写真展」である。

成澤君は、写真家・徳光ゆかり先生に師事。数年前から、趣味の写真を研ぎ、今回初めての写真展開催となった。彼の作品は2点。ひとつは「残暑の昼下り」のタイトルで、昼下がりに、神楽坂牛込橋から眺めた川べりのテラス席を撮った作品。（昼下がりの表情を感じさせる水面の波紋が美しい作品である。（写真1）ふたつ目は「夢の中で」のタイトルで、背景のスタンドグラスからの光を通して、アンティークなグラスを撮ったセットアップフォトである。アンティークに輝く光が美しい作品である。

徳光ゆかり先生の撮影モットーは、「こころ優先、何をどう撮りたいか自分の気持ちが一番大事、こころの針がふれたときに自由に撮る。」とのこと。

まさに、彼の撮影時の思いを伝える2作品であった。

熱意こもった作品にふれることができ、今回の写真展にお招きいただいた成澤君に感謝！

写真鑑賞の後は会場隣のパンの美味しいレストランでランチ。写真展開催を祝して、ビールで乾杯となった。写真談義はもちろん、成澤君が会長をやっている「蕨の会」の話しでは、何と2025年までの「探訪先計画」が示され、大いに盛り上がった。

（2019年3月2日記）

【写真1：自作（「残暑の昼下り」）の前で成澤君】



【写真2：左から関、成澤、筆者、上原】

